

# 和地ひとみレポート No.172

## 平成27年東大和市議会第3回定例会：一般質問①『都市間交流について』 友好都市関係の意義は？



### ■市の考える友好都市交流の意義とは

…9月1日から開催されているH27年東大和市議会第3回定例会において、私は下記の2つのテーマについて一般質問をおこないました。

#### ■都市間交流について

①東大和市の考える都市間交流の意義とは。

②喜多方市との交流について

⇒友好都市締結から現在までの交流について。

→市民の交流の実績と効果について。

→行政の交流の実績と効果について。

→教育、文化の交流の実績と効果について。

⇒喜多方市は当市以外に香取市とも友好都市締結を行っている。喜多方市と香取市の交流の内容は把握しているか。

⇒喜多方市との交流の課題と今後についての考えは。

#### ■市の人材育成について

①H20年4月に策定された「東大和市人材育成基本方針」(第1期)は今年の4月に改定され2期目として新たなスタートを切った。

⇒1期目で掲げた取り組み事項の多くは実施済みとのことだが、実施したことによる効果などの検証はしているか。

⇒人事評価制度の変更による効果は。

⇒1期策定の際に見受けられなかった新たな人材育成上の課題も散見されるようになったとあるが、具体的にはどのような課題か。

⇒1期の策定に際して、翌年のH21年には「職員接遇マニュアル」を策定している。その効果は。また、内容見直しの必要性の有無について。

②東大和市人材育成プランについて

⇒このプランで実行されたものの効果について。

→採用方法の変更により、応募者が増加したとのこと。

その他の効果についてはどのようなことがあるか。

→メンター制度導入の効果は。

→その他、確認できた効果はあるか。

⇒第2期人材育成基本方針に合わせて、人材育成実行プランは改定するのか。

⇒2期では新たに「コンピテンシーモデル」を導入した。

→導入を決定した経緯、理由は。

→コンピテンシーモデルをどのように使用するのか。

→コンピテンシーモデル導入に期待する効果は。

…この友好都市締結は、これまで友好関係を築いてきた旧山都町が喜多方市と合併したことに伴い、今まで旧山都町と築いてきた関係をさらに推進し交流を通じて互いの理解と連携を深め、両市のさらなる発展を目的としています。都市間交流については、過去、他の議員の一般質問でも度々取り上げられており、その際の市側の答弁からは、今後、交流の内容、幅も広がっていく可能性を感じました。しかし、実際の交流活動にはあまり変化を感じていないというのが率直な感想です。よって、その後の交流事業の進捗、当市の都市間交流についての考え方、喜多方市との交流の現状などについて確認したく、今回はこのテーマを取り上げました。

### ■交流の現状は

…都市間交流には、行政面での情報交換、文化面、教育面、また、昨今は災害時の助け合いのような様々な意義があります。特に災害時の相互協力は双方にとって有意義なことですが、これも人と人との付き合いと同様に、日頃からの行き来＝交流、関係の深さが重要です。

…喜多方市の方が東大和市を訪問されるのは、「うまかんべえ～祭」「産業まつり」などでの物産販売が主なものです。市民の皆様は喜多方のラーメン、蕎麦、日本酒、野菜、お米など様々な物産品を喜んで購入され、物産品を通して喜多方市を身近に感じていることと思います。一方で、物産品を通して喜多方市民の皆様は東大和市を知っていただく機会はありません。例えば喜多方市の市庁舎で来客に出すお茶を東大和市の狭山茶にさせていただき「これは友好都市の東大和のお茶」と紹介して頂くことも可能だと市に提案しました。

…その他、市民個人の交流について確認。東大和には市民が喜多方市を訪問する場合、団体の場合は交通費補助、個人の場合は宿泊費補助が出る制度があります。東大和市民がこの制度を利用した実績はH26年度2団体(28人)個人20人との答弁。一方、喜多方市はH26年度に同じような制度がスタートしたばかりのようですが、H26年度にこの制度を利用して東大和を訪れた喜多方市民は、1団体(12人)、個人は1人との答弁でした。喜多方市は観光地でもあり、東大和は宿泊施設がないことも影響していると思いますが(喜多方市の補助金は東大和を訪問の際、東村山市・武蔵村山市・立川市・小平市・埼玉県所沢市の宿泊施設を利用した場合に補助)、行き来という意味ではバランスが悪く残念です。(裏面に続く)

…多くの自治体が国内外の自治体と友好都市、姉妹都市提携を結び、様々な活動を行っているところは周知のことと思います。東大和においても、H24年4月に喜多方市との友好都市関係を締結しており、今年は新たな交流が生まれて4年目となっています。

…行政分野での交流については進んでいるのでしょうか。2年前、東大和市では産業振興基本計画を策定し、今後9年間は観光を横軸に産業振興を図ると書かれていました。このことについて、私が一般質問で取り上げた際は、観光が今回の産業振興の目玉であり、今後は観光で先進的な取り組みをしている友好都市である喜多方市に様々なノウハウを聞いて取り組んでいくとの答弁がありました。その点について、この2年間どのような取り組みがあったのかを確認したところ、現在まではなかったとのこと。ただし、今後は喜多方市の『蔵の街観光ガイド』と東大和市の『観光ボランティアの会』との交流が計画されているとの答弁でした。

## ■文化、スポーツ、教育面の交流は

…教育面での交流は、小中学生の作品交流（きらめきアート展、書き初め展）、文化面では文化協会が交流をしているとのこと。スポーツ面では多摩湖駅伝に喜多方からのチームが参加。喜多方市のもう一つの友好都市の香取市（千葉県）は友好都市のきっかけとなったポート関係のイベントでの行き来、ウォーキング大会での行き来などを行っています。喜多方市にも駅伝大会があるので、東大和市からもチームが参加し交流を深める行き来を検討したことはないのかを確認しました。市側からは「喜多方市からお声がけを頂いたことがないので検討したことがない」とのこと。友好都市なので、交流の機会を見つけ、ざっくばらんに打診をすることが必要だと思います。

…また、東日本大震災以前は東大和市内の中学校が農業体験のために喜多方市を訪れていたが、現在は新潟県で実施しています。一方で、香取市はスキー教室を喜多方市で行っています。東日本大震災の影響があったとは言え、東大和市もそろそろ学校教育の活動の中で喜多方市を訪問することを考えても良いはず。その点について市側からは「喜多方市は距離が遠いので新潟県に行っている」との答弁でした。

## ■学校給食のお米は

…東大和市が旧山都町と友好都市関係だった際、学校給食では月に1度程度、旧山都町のお米が出されていました。しかし現在は、福島第一原発の事故の関係で給食で喜多方市のお米は出されていません。

…東大和市も風評被害の影響を考え、うまかんべえ～祭で喜多方市のお米を使用。また、ビックボックス内のレストランも友好都市喜多方市を助けようと喜多方市のお米を使用しています。学校給食での使用再開について、以前は価格面も関係しているとの答弁でしたが、今回の答弁では価格ではなく、一部の保護者から、なんとなく心配だとの意見がゼロにならず、もっと東大和市内

で喜多方のお米が食べられているという実績ができたらとの答弁でした。市内での実績がないのであれば、まずは市役所内の食堂で扱うなどの努力もできるはず。福島県では県内で生産された玄米は全量全袋検査を実施し食品衛生法の基準値以下であることを確認。そのうえ喜多方市では更なる安全・安心の確保のため、独自に米の放射性物質検査を実施し全ての玄米から放射性物質は検出していないことを公表しています。「学校給食でなぜ喜多方市のお米を扱わないのか」と子ども達に聞かれた場合、なんと答えるのか。教育的な観点からも『友好』の意味を再度考えて欲しいと市に伝えました。

## ■都市間交流は市民の福祉の増進のために

…当市と喜多方市が友好都市締結を結ぶ経緯は旧山都町が喜多方市と合併したことで、実は同じような経緯の中で、交流関係を白紙にしている例も他自治体ではあります。当市の場合は双方の市長がこれまでどおり交流していこうと合意。長年の交流を活かしていこうという気持ちの表れだと思います。せっかくの交流なら、友好都市締結を自治体の本来の目的であることに活用すべき。友好都市提携は、自治体本来の目的である「住民の福祉の増進を図る」ための「手段」であり、「目的」ではありません。また、友好都市交流も税金を使う以上、広義での「地域益」の観点から、「費用対効果分析」が必要。この地域益は経済的利益だけではなく、文化、教育、都市のイメージ向上、都市アイデンティティの確立等が期待できます。効果の分析について市は「H26年度の市民意識調査の結果では、都市間交流に対し非常に満足、満足と答えた方は8.8%、どちらとも言えないが74.7%、不満、非常に不満が8.7%。この結果から友好都市に対する満足度が向上していないあらわれだと認識している」との答弁。

…例えば、東大和市が実施し、今年2年目となる中学生のアメリカンサマーキャンプは盛況とのこと。喜多方市はアメリカ合衆国オレゴン州ウィルソンビル市と昭和63年に姉妹都市を締結し、中高生の相互派遣をしています。東大和市も市民の国際交流ニーズを検証するために、試しにそこへの合流の打診をしても良いはず。また、東大和市にある世界的にもトップクラスのプラネタリウムを喜多方市の子ども達に見てもらおうなどの交流も可能です。都市間交流は絶対必要なことではありませんが、友好都市交流をやるなら、きちんと市民が意義を感じられる交流にすべき。流れの中で何となく続けている…ということで、行政が時間とお金をかけることを市民は納得しないと市に伝えました。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」  
【プロフィール】



1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山奥の小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。／「学校」の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク（※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。その後、人材開発部長を拝命。／『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報などに従事。2011年4月、初当選。顔の見える議員として、日々奮闘中。

東大和市 市議会議員  
和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>  
✉ [wachi\\_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp](mailto:wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp) 【電話・FAX】 042-516-8546  
〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102